

# 兵庫保険医新聞

第1612号  
2010年2月5日

発行所 兵庫県保険医協会  
http://www.hhk.jp/  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078-393-1801  
(1部350円送料共・年間購読料12,000円)  
振替01190-1-2133  
(会員の購読料は会費に含まれています)

## 今号の記事

- 基金・国保審査委員会と懇談 2面
- 詳報 理事会特別討論「医師たちの原爆症」 3面
- 研究 保険診療のてびき 4面  
「医療安全管理」当たり前のことを当たり前に

## ラジオ関西で「医療知ろう！」スタート



出演中の池内春樹理事長(右)とパーソナリティーの寺谷一紀氏(左)

## 池内理事長らが番組出演

# 医療の処方箋を語る

協会役員が出演するラジオ関西番組「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう」内のコーナー「医療知ろう！」が始まった。1月7日から3月25日まで全12回。番組は毎週木曜午後7時から30分頃から。市民になじみの薄い医療を取り巻く問題を分かりやすく語り、医療崩壊の実態や処方箋を説明する。番組ではリスナーからの質問や意見も募集しており、早速、患者さんからお便りが届いている。

第1回は1月7日。池内春樹理事長が出演し、協会を紹介を行った。また、憲法にうたわれている権利を保障するため社会保障の充実とその前提となる平和の実現を訴え、「社会保障と平和はかち取るもの」だと締めくくった。

第2回の1月14日は八木秀満副理事長が出演。「医療のIT化」と題してレセプトオンライン化について、義務化により閉院してしまう診療所があることや個人情報漏えいのリスクが高くなることなど、市民

に直接関わってくる問題であると説明した。

第3回の1月21日は津田賢治副理事長が出演。全身の健康における歯科の役割を解説した。また、健康で文化的な生活の保障は憲法に定められた権利であり、国や行政が歯科も含めて受診しやすくすべきだと強調し訴えた。

第4回の1月28日は、なでしこ歯科の黒田耕平先生が出演。小児歯科や障害者歯科について自身の体験をもとに話した。また、窓口負担の重さから患者の受診抑制が起きていることを紹介し、窓口負担引き下げを訴えた。

ラジオ関西「寺谷一紀と！い・しょく・じゅう」  
「医療知ろう！」出演中!!  
3月25日まで毎週木曜、19時30分ごろから出演

【2月の予定】  
11日：インフルエンザと日本のワクチン政策  
18日：高い国民健康保険料と患者窓口負担  
25日：後期高齢者医療制度の即時廃止を

AM558KHz  
1395KHz(県北部)  
番組チラシとポスターは協会☎078-393-1807  
まで。医院窓口で患者さんにお知らせ下さい。

## 診療報酬改定 実際は0.027%

薬価削減600億円計算せず

診療報酬改定で医薬品の「長期収載品の追加引き下げ」分マイナス0.16%が、厚労省の発表した「全体プラス0.19%」の枠外になっていることが明らかになった。これに対して協会はただちに、薬価削減による財源は診療報酬に回すべきで、再診料統一問題では病院再診料の引き上げ(220億円)で診療所再診料に統一することは十分可能とする旨の理事長声明を関係閣僚、中医協委員などに送付した。

改定数字の枠外となったのは「後発品のある先発品の価格を一律に引き下げる」もので、これによる影響額は600億円と試算されている。これについて厚労省は「これまで診療報酬以外に充ててきた経緯があり…改定率の計算には含めなかった」と事実を認めている。

協会は1月28日の国会議員要請行動でも、この問題を地元議員らに訴えた。(報道は次号)

## 協会が理事長声明「病院再診料引き上げ財源に」

暖冬といわれて久しい。しかし、この冬は久しぶりに雪の量も多く、冷たい冬である。昨年の夏、丹波の知人が言った。「カメムシが多いから、今年の冬は大雪で寒くなるよ」。なぜかと問うても、昔からそう言い伝えられている。氣象庁の予報に反して、カメムシのほうに当たったようである。農家の人たちは、このようにして自然からいろいろのことを学んだのだろう。▼空調の効いた環境の中でばかり過ごしている、自然との接点が少なくなり、季節の移り変わりに鈍感になる。現政権は「コンクリートから人へ」とうたって、大規模な公共事業のメリット・デメリットを仕分けし、ハコモノ行政を断つという。その理念には賛成である。治水事業はもろろん必要であるが、ゼネコンを太らせ、一時的な雇用創出をもたらすだけの事業には、再考が必要である。▼わが国は国土の約7割が山林である。戦後、営林事業は採算に合わないという理由で山は放置され、荒れ放題。自然の生態系を乱すほどだそうである。国は少なくとも百年の計をもって、植林、森林の管理を行い、林業を盛りたて建築資材や家具などの木工品の製造を支援し、国内での需要に対応すべきであると考えられている。温暖化、砂漠化が進む地球上で、外国、特に発展途上国から、安いからという理由で木材資源を奪うのはもうやめよう。▼美しい森林を育てることによって炭酸ガス排出量の削減ができ、温暖化防止への一手となりうる。と考える。(硝子)

# 9条でアフガン貢献を

九条の会・兵庫県医師の会 新春講演会

九条の会・兵庫県医師の会は1月10日に協会会議室で、新春講演会「世界テロ戦 平和はつくれるかーオバマ戦略の見通しと日本の役割」を開催。医師、歯科医師や市民ら150人が参加した。講師は東京外国語大学大学院教授で元アフガニスタン武装解除日本政府特別代表の伊勢崎賢治氏。伊勢崎氏は、国連や日本政府からの要請を受けて西アフリカ・シエラレオネやアフガニスタンでゲリラの武装解除を指揮してきた経験から、アフガニスタン紛争を解決するための日本の役割などについて語った。また赤穂市民病院名誉院長で中医協委員の邊見公雄先生が「生命輝かせよう日本の国民 守ろう憲法と国民皆保険制度」をテーマに特別講演した。

察(再建)によって支配しようとした。しかし、軍閥たちの間で内戦が始まり、アメリカは軍閥に武装解除させ、

その際、アメリカと軍閥の間で中立性を提供したのが日本であったと経過を説明した。その後、武装解除後を狙ってタリバンが再び戻り、アメリカの空爆に恨みをもったアフガン人がタリバンに寝返るといった悪循環が起きていることを解説した。

伊勢崎氏は「タリバンは元来、世直し運動だった」として、アルカイダとタリバンを区別し、アメリカは「タリバンとの和解も仲介者には日本しかない。『美しき誤解』をどう強化する

## 特別講演に 邊見公雄氏

邊見先生は、医療崩壊が進む現状や背景、これから医療の課題を、中医協での議論も紹介しながら説明。診療報酬引き上げや医師確保、不採算医療への適切な財政支援体制の確立などを、民主党政権に望むこととしてあげた。

また、約300人のボランティアの協力も得て運営している赤穂市民病院の事例も示しながら、医療費削減のなかで、工夫によって命を救えることもあると強調。地域の病院を存続させ地域医療を守ろうとする住民の運動が各地で起こっていることを、明るい萌芽として紹介した。

## 「美しき誤解」

伊勢崎氏は、アフガニスタンに親米政権を樹立して民主主義を定着させ、法と二つの暴力装置(国軍創設、警



別講演 生命を守る 赤穂市民病院名誉院長 邊見公雄先生が特別講演した(下)



日本を共通の敵とする他の軍閥たちである北部同盟と指摘。アメリカはアフガニ